

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2614102172		
法人名	医療法人 松寿会		
事業所名	グループホーム 小野		
所在地	京都府京都市山科区勸修寺閑林寺83-6		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyoVoCd=2614102172-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は家族交流会を京都水族館への外出企画し家族様参加協力もあり実施できた。イルカショーを見学入居者さんも後日写真を見て楽しんでいた。但し家族様の参加人数が少なかったことも残念ではあり12月は事業所内の食事を家族交流会として予定している。毎年恒例の地域ボランティアの民謡踊りの会による発表・花火大会・運動会の玉入れ参加も楽しみとなっている。誕生会では和菓子と抹茶の薄茶を提供する企画も実施。お茶会風誕生会と嗜好を凝らし各自が趣味で楽しみとされていたことを思い出す機会となった。入居者さんの希望の多い習字は定期的実施1階での掲示によって励みや面会・見学の方との交流に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念に地域を意識した言葉を加え「ゆっくり一緒に楽しく地域と共に」と見直し、利用者が地域と繋がりがながら暮らせるよう支援しています。散歩や買い物、地域の運動会などに積極的に出かけたり、地域の方との交流を意識した夏祭りなどを企画しています。日々の食事作りや掃除などの家事は利用者のペースに合わせて一緒に行くことを大切にし、趣味のカラオケや書道など利用者の希望を聞いて好きなことをしてもらい楽しんで過ごせるよう支援しています。職員は「気づきボード」や連絡ノートを用いて積極的に意見や提案を出しており、収集した意見や提案は業務改善や介護計画の見直し時に活かしています。また職員は言葉や尊厳の保持などの自己チェックを定期的に行い、個々の対応を振り返りながら、利用者の尊厳を守り利用者の立場に立った支援となるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所内にも理念・基本方針を掲示して日々の業務時にも意識できるようにしています。新人職員にもわかりやすい言葉で共有できるようにしています。家事全般に利用者と一緒にしています	開設時に作成したホームの理念に地域を意識した言葉を加え「ゆっくり 一緒に 楽しく 地域と共に」と見直し、玄関やホーム内に掲示し職員に意識づけをしています。積極的に地域に出かけ、ホームの行事などを通して地域の方との交流や日々のケアでは時間が掛ってもゆっくり付き添い食事などの家事を一緒に行うことを大切にしながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民謡踊りの会の方にGHにボランティアにて踊りの発表・夏祭りの盆踊りの踊り先生として参加して頂いて交流している。学区の運動会では近隣の事業所との交流の場になっている。	近隣の喫茶店や商店の利用や散歩時に出会った方とは挨拶を交わしています。学区の運動会では競技に参加したり、中高生の体験学習の受け入れやボランティアの来訪、保育園児との交流などを行っています。今年度は台風のため中止となりましたが、地域交流を意識した夏祭りを企画するなど交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	チャレンジ中学生・高校生のインターシップ学習の受け入れを行い認知症の専門職として勉強の機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では外部評価の結果報告、目標達成計画についての話し合い家族などから意見を頂き検討している。身体拘束防止委員会・事故防止委員会の報告・ヒヤリハットの報告も毎回実施。民生委員・家族よりの地域の行事の情報などを参考にしている。	会議は複数の利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て隔月に開催しています。写真を用いて活動や行事などを伝えたり、ヒヤリハットは改善策と共に報告しアドバイスもらっています。利用者から出された食事や外出希望などの意見は行事に反映しています。家族会と合わせて開催するなどの工夫もしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果報告・運営会議の議事録・入退去報告書などの提出の際に市町村担当者とも面談を行い運営会議などの出席の依頼・相談をしている。地域のケア会議で役所の担当者と連携をしている。	運営推進会議録は区役所の窓口を持参し運営状況を報告しています。分からない事などがあれば気軽に問い合わせたり、市職員の参加がある連絡会や地域ケア会議などに参加し情報交換を行い連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が施設として行っている現況の理解。エレベーターの暗証番号・ベランダの窓が全開にならない・非常口の扉の暗証番号などの身体拘束を把握理解する。身体拘束防止委員会にて毎日のケアの事例検討などを取り上げて勉強している	身体拘束防止委員会が中心となり拘束の無いケアに取り組んでいます。エレベーターは施錠していますが出かけた方には付き添ったり、日頃から外出の機会を多く持ち閉塞感の無いよう努めています。職員は身体拘束などの自己チェックを定期的実施して振り返り、不適切な言葉掛けなどが見られた場合は職員間で話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会でも毎月のテーマについて各事業所での事例検討を実施し検討。言葉のチェック表を各自職員は実施している。ミニのカンファレンスで声かけなど気になる場合は話し合い修正出来るように互いに注意し合うようにしている。		

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域ケア会議に管理者・計画作成者と共に出席し地域包括・民生委員様と連携話し合い・勉強会で意見交換などを行う。地域社会福祉協議会とも連携して入居者が適時に利用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には事前に十分な時間を頂くことを前もって理解頂き、説明を実施している。わかりにくい部分・理解の難しいことは再度説明をする。入居者家族にも個別に丁寧に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議にも家族の参加人数も多くなり意見も気軽に出示てもらえるような雰囲気工夫。運営会議に出席できない家族さんへは議事録を渡して意見をいただけるようにしている。	利用者・家族の意見は日々の関わりの中や運営推進会議時などの他、個々の家族とは面会する機会を作り、現状の報告と共に意見がないかを聞いています。行きたい場所や食べたい物などの意見が多くケアの中に取り入れています。また家族がより意見や苦情を出しやすいよう重要事項説明書には全利用者分の市や区の行政窓口も記載し、相談しやすくしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	母体であるHPの定例会議や施設の全体会議に職員は出席してGHのカンファでの意見・要望もあれば提案している。日々の申し送りノートも活用して職員よりの意見が反映できる工夫をする。各委員会では職員が参加後に伝達をする。	気づきボードや申し送りノートを活用し職員から意見や提案を募り、会議時などに職員は業務改善やケアに関する話を話しています。意見によっては法人の定例会議にあげて検討されています。また管理者は職員の様子を見ながら声をかけ、随時面談しながら意見を聞いたり相談を受けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には自己評価表を実施。評価に繋げていけるようにしている。施設長とも定期的に面談を実施、個別の面談も随時希望があればしている。母体のHPの定例会議でも提案は実施務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加できるようにシフトの調整をしている。施設内部研修も参加できない職員には研修報告書の回覧を実施周知している。個別に職員の力に応じてリーダーより指導を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHとは散歩時に会い入居者同士の交流の場となっている。グループホーム協議会の事例検討会発表などでは意見交換や勉強となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との初回面談時にセンター方式のシートの中で協力を依頼記入してもらい、介護計画を立てる際に本人の困っていることや希望を気づきボードに職員より多く収集して計画に反映できるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学を行ってからの申し込みを勧めている。判定会議の前にも本人の見学・GHの体験の実施してから馴染めるか本人・家族の意見も聞いて勧めています。入居後も外泊も取り入れながら家族と協力を依頼し相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネと連携を十分に行い情報交換を密に実施。本人の現況の把握によって本人にとって必要なサービスの判断は担当ケアマネと相談の上対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はGHでの生活リハビリの重要性について理解して、本人の出来ることを把握して個別に出来ることの支援を実施する。本人が楽しくできるように雰囲気も大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の出来る事・したいことを家族にも聞き取り施設側・家族側の支援出来ることを具体的協力事項を把握して本人が希望する暮らしに少しでも近づけるように相談。面会・外出などを支援		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き取り家族と面談を実施して外出・外泊・行きたい場所の検討を具体的に進めています。馴染み美容室や外食店利用も家族の協力も得て検討しています。1階でのHPの健康フェアでは地域の方との再会の場となっています	友人や知人の来訪があり、リビングや居室など希望の場所に案内しゆっくり過ごせるよう配慮しています。家族の協力を得て冠婚葬祭に参加したり、家族の発表会を見に行き馴染みのすし屋で外食などを楽しむ方もおり、スムーズに外出できるよう出かけるまでの準備を支援し、関係が継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間以外は空いている席にて談話・ソファ一席も活用して過ごされるようにしています。外出の際も同じメンバーでなくバランスよく出かけられるように支援。利用者同士の関係も大切に見守っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院のHPを訪問して経過相談に応じている。HPを利用の家族と会い経過報告を受ける事もある。HPとの相談員とも連携して転院時の見送りを行うなどを支援		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志疎通が可能な場合は利用者本人から、困難な場合はご家族様や各職員からの情報収集をケアマネジャーの視点で行い、その人らしい生活の維持に努めています。	入居時に利用者・家族から聞き取った生活歴などの情報や入居後は約1ヶ月をかけて、「私の気持ちシート」を用いて本人の嬉しいことや不安に思っている事、やりたい事など、関わりの中で把握した内容をアセスメントにまとめ共有しています。把握が困難な場合はカンファレンスを開き思いを汲み取れるよう職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式のシート記入をご家族様に依頼して情報収集に努めています。また、気付きポートを活用し各職員からも利用者様の様子やニーズといった情報を収集しケアプランの作成を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア実施表の活用や、バイタルチェック表の確認、介護経過でのレクリエーションの様子や特記事項の確認を行い個々のニーズを把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のニーズや状態に合わせた定期的なケアプランの見直しを行い、本人・ご家族様・GH職員といった関係者だけではなく施設内での行事参加時など他職種からの情報収集にも努め状況に即した介護計画になるよう心掛けています。	利用者・家族の意向やアセスメントの基、介護計画を作成し3ヶ月毎に見直しています。見直しの際には日々の記録や職員が気付いた内容、申し送りノートに記載された情報などを基にモニタリングを行い、計画の実施状況を確認しています。また見直し毎にアセスメントを行い本人の現状を把握し、面会時などに聞いた家族の意向や必要に応じて受診時の情報を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実施表にて簡単に実施状況が把握できるように見直しに活かせるようにしています。また申し送りノートにて情報を職員が共有できるようにも心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ施設内のデイサービスやデイケアとの共同企画に参加し活動を共にしています。また、母体である共和病院主催の健康フェアなどにも積極的に参加しています。		

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区民運動会や秋祭りへの参加やコンビニへの買い物などの実施もしています。また、本施設主催の夏祭りの開催など地域住民とのコミュニケーションも図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時や希望があった場合など、各入居者のかかりつけ医師の確認や調整を行い常に医学的な指示や情報収集に努めています。また、利用者情報の共有のため必要時には情報提供書など作成しています。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き継続できることを伝えています。かかりつけ医や専門医への受診は家族が付き添い、口頭や情報提供表を作成し情報のやり取りをしています。併設の協力医へは2週間に1度職員が付き添って受診し、体調に変化などがあれば随時診てもらうことも可能です。また法人やホームの看護師に相談しながら日々の体調管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設常勤の看護師に毎日利用者の状態を報告しています。体調の変化や転倒などの事故発生の際にも、適切な処置や受診の相談も随時実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の医師・看護師・相談員との連携を図り安心した治療ができる様に努めています。また、依頼があれば入退院時に家族の付き添いなども実施して情報収集にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアを実施できる体制が整っていないため、終末期におけるケアについては本人・家族との相談や他施設申し込みの協力などを実施し、その時、本人にとって一番良い選択が出来る様に努めています。	入居時に終末期の支援については現状では体制が整っておらず対応が難しいことを伝えていますが、時期が来たら医師から家族に説明があり、家族とは入院や他の施設への移行を含めて方針を話し合い、個々のケース毎にホームできる限りの支援を行っています。職員は今後に向けて終末期ケアの研修を受講し学ぶ機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策マニュアルや緊急時対応時の連絡先一覧表をいつも見える場所に設置しています。また、看護職員からの指導や施設内研修も実施しています。本年度はAEDを設置講習会に参加し施設内に設置しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人職員を中心に施設内の火災訓練に参加し、消火器の場所の把握や使用方法についても周知徹底。本年度は防火管理責任者の研修に計画作成者が参加して夜間想定避難訓練の実施に向け進んでいる。	消防署の指導の下、昼間を想定した施設合同の訓練を年2回実施しています。民生委員を通して地域の消防団に訓練の見学を依頼しています。次回の訓練は防火管理責任者が中心となり夜間想定避難訓練の実施を予定しています。	見学を依頼されている消防団との連携を図り、予定されている夜間想定による避難訓練の実施が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修では認知症の理解の勉強をしている。利用者に対する言葉・声かけは尊厳を大切に指導しています。申し送りなどは事務所内にて行い台所・リビングではインシャルトークなどで配慮	入職時には接遇やマナー、個人情報などについて学び、利用者には低音でゆっくり話すよう伝えていきます。職員は言葉や尊厳の保持などの自己チェックを定期的に行い、各自が日々の対応を振り返り確認しています。管理者は本人の思いを汲み取り、置かれている立場に立って考えることの大切さを繰り返し職員に伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉で希望する生活の聞き取りを実施しています。希望の出やすい居室内での聞き取りや環境作りわかりやすい写真を利用している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を基本に支援しています。職員は協力して柔軟に対応できるように連携しています。入浴当番を決めていますので以外の日勤者は出来るだけゆったりと利用者の希望を聞き共に過ごすようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て在宅時に利用していた美容院の利用の継続は勧めている。化粧品も希望品の利用を本人と近隣の薬局で購入できるように支援。洋服も季節の入れ替え時に不足の購入は家族に依頼		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチョンマットを利用。食器は個別の品を外出時に選んで購入。個別に苦手な物や好物の聞き取りをしている。盛り付け・配膳・台拭きを一緒に実施。生協のチラシを見て献立の相談	ホームにある食材を見て相談しながら献立を決め、テーブル席も使いながらエプロンを着けた利用者と同準備から盛り付け、配下膳まで一緒に行っています。茶碗や箸などは愛着のある自分の物を使用したり、ランチョンマットも用いて美味しく食べられるよう見た目にも配慮をしています。弁当を作り外出したり、誕生会は寿司や赤飯などの希望を聞いています。職員も利用者と食卓に着き同じ食事を摂り、談笑しながらゆったり食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室内にてポットが置いてある方もあり。いつでも本人の希望する時間に飲めるように支援しています。1日2回のお茶の時間もあり。テーブルにポットもあります。天然水のサーバーの設置あり。誤嚥のある方には刻み・とろみをつけるなど対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝寝る前に声かけや誘導しています。その方に合わせた形でお手伝いしています。訪問歯科も希望者には毎月の往診もあります。義歯の不具合の調整にも対応		

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時には布パンツ利用の方は継続できるように支援しています。個別排泄表を適時に利用排泄の把握に利用しています。男子トイレ利用時のプライバシー配慮のため目隠しカーテン設置準備しています。	排泄は自立の方も多く、支援が必要な方は個々の記録から排泄リズムを把握したり、席を立たれるなどのサインを見逃さないよう声掛けや誘導を行っています。支援の際にはできるだけ自身で行ってもらい、本人のできない所を見極め必要な時だけトイレに入室するなどの支援に努めています。利用者が失敗なく現状維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多めに購入して、十分に摂取できるように工夫しています。水分の摂取にも個別摂取表を適時に利用。レクリエーションでも体操・フーセンバレーなどで運動の機会を増やしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は朝より夕方まで、毎日準備ができています。2、3日空いている方は声を掛けています。入浴時間もおおむね希望する時間帯にしています。入浴剤も揃えて楽しめるように工夫	入浴は週に2回を目安に午前中から15時頃の間で希望の時間を聞きながら声をかけ入ってもらい、希望があれば少し早い時間や夕方位まで入ってもらえるよう職員間で検討しています。好みのシャンプーを使う方や色や香りの違う入浴剤を準備し選んでもらい、入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活のリズムにて起床・就寝のスタイルで過ごされています。日中にも在宅時に過ごされていた形に沿って居室で読書やテレビを楽しまれています。レクも自由に選んで参加を決められています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬は個別のカルテ内に薬情報があり。服薬の変更はカルテ内にあり、管理日誌にて服薬変更記載また、申し送りノート内にも記入して職員には周知。全体会議での看護師よりの勉強会で薬の副作用の確認あり		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	GHの生活の中でそれぞれの出来ることをセンター方式を利用して趣味・得意なことなどを支援。習字などの希望者の多いものは定期的に実施。1階の書籍の貸出しの利用もあり		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に出来る限り沿って外気浴などで気分転換が出来る工夫は実施しています。近隣の薬局・花屋・喫茶店などにそれぞれが出かけることのできるように支援。外出の機会が少ない方は家族様との協力を依頼しています	天気の良い日は外出の希望を伝える方もおり、近くにある散歩コースを散策したり、隣接する花屋や近隣の商店に買い物などに出かけています。季節に合わせた花見や紅葉、ドライブなどに出かけたり、今年度は家族を誘って水族館に出かけています。また少人数で出かける機会を作ったり家族の協力を得ながら、外出を好まない方も偏ることなく出かけられるよう支援しています。	

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としての管理はしていますが家族本人の希望により所持されている場合もあり。万一の紛失の場合の承は頂いています。公衆電話の利用などのお金は自由に所持されています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、家族の協力を得て出来る限り実施しています。ただ家族の都合も考慮して時間や回数は相談しています。本人への手紙・電話また、本人よりの手作り年賀状の支援あり		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは業者に依頼定期的に防臭剤の取り換えを実施。行事の写真リビングに掲示。入居者同士の楽しみになっている。入居者の家族よりの書籍・雑誌の寄付も定期的にありいつも選んで見ることができる。	フロアは低い家具を利用して空間を分け、ソファを置き寛げるスペースを作ったり、テーブルは利用者間の関係性への配慮や気分転換を兼ね、定期的に配置替えをしています。玄関やフロアには生花を活け、クリスマスツリーや利用者の作品や書などを飾り、季節を感じながら過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側のソファ席は区切りの本棚の家具もあり。好きな時間に本を読むことが出来る。食事以外は空いているイスに掛けてそれぞれが手作業を集まっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談して本人の馴染みのある家具やタンス・写真・洗濯物干し・好みのものを棚を置かれています。好みのカレンダー・手作りの作品を貼って楽しまれています。	手作りの表札が掛けられた居室には洗面台やベット、床頭台などが備え付けられ、利用者は使い慣れた本棚などの家具や冷蔵庫、テレビなどを持ち込んだり、趣味の本や雑誌を読む方、琴を弾いたり居室でお茶を飲む方など、其々に過ごしやすいよう配慮しています。大切な仏壇を持参する方もおり、一人ひとりに合った安心できる居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所はI・H調理器があり。浴室には手すりを設置して安全に入浴できる工夫をしています。トイレには手すりを設置して入居者が安心して利用できる環境となる様にしています。		